

文明と観光

— 新たな文明モデルをめざして —

今、日本ではどこでも、観光客の誘致に熱を入れています。しかし観光振興は何のために行われるのでしょうか。

「富国徳の理想郷」美しい“ふじのくに”を目指す静岡県において、観光をテーマとして、新しい価値観、新しいライフ・スタイル、新しい地域コミュニティのあり方を提唱し、新しい文明の構築を巡って討論します。将来観光の分野で仕事をしたいと考えている学生や観光業に従事している方、その他観光に関心のある幅広い層の皆様の御参加をお待ちしています。

〈敬称略〉

日時 **2018年**
10月13日(土)~14日(日)

会場 **静岡県立大学草薙キャンパス小講堂**
(静岡市駿河区谷田52番1号)

主催 **比較文明学会**

共催 **静岡県立大学**

後援 **静岡県**

事前申込制
(定員150人)
入場無料

開会あいさつ

静岡県知事 川勝 平太

シンポジウムI

「文明と観光」

基調講演

「文明に赴けば名所も日に新た」

静岡文化芸術大学 学長 横山 俊夫

趣旨説明

鬼頭 宏(静岡県立大学 学長)

発表

「言語と宗教から見た文明の鳥瞰」

青木 健(静岡文化芸術大学教授)

「昭和初期の国立公園法制定期にみる観光立国の期待」

赤坂 信(千葉大学名誉教授)

「イスラーム文明と観光」

富沢 壽勇(静岡県立大学教授)

「観光のポテンシャル —自然・文化・文明の多様性の言明—」

松本 亮三(東海大学教授)

パネルディスカッション

コメンテーター

服部 英二(元UNESCO事務局長官房特別参与)

司会

富澤 かな(静岡県立大学准教授)

10/13 土
13:30~17:00
(開場 13:00)

シンポジウムII

「地域資源を生かした観光」

発表

「『ムセイオン静岡』の基本的理念」

立田 洋司(静岡県立大学名誉教授)

「静岡の知的文化財『羽衣』と観光」

鈴木 さやか(静岡県立大学講師)

「漁協直営食堂が地域社会に与える影響」

平塚 聖一(東海大学教授)

「中山間地域における観光資源としての

『他出身』:浜松市天竜区佐久間町を事例として」

船戸 修一(静岡文化芸術大学准教授)

パネルディスカッション

コメンテーター

北上 真一(静岡県立大学特任教授)

司会

奈倉 京子(静岡県立大学准教授)

10/14 日
13:45~15:45
(開場 13:15)

※ 10月14日(日)9時30分から12時40分まで学会員による個人研究発表が開催されます(発表者等詳細はホームページ参照)。

【問い合わせ先】

比較文明学会第36回大会実行委員会事務局
(静岡県立大学グローバル地域センター)

TEL:054-245-5600 FAX:054-245-5603

E-mail: glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページからお申し込みいただけます。

<http://global-center.jp/>

会場へのアクセス

JR「草薙駅」南口(県大・美術館口)、または静岡鉄道「県立美術館前駅」
同「草薙駅」から徒歩15分



文明と観光 — 新たな文明モデルをめざして —

10/13(土)13:30~17:00 「基調講演・シンポジウムⅠ：文明と観光」

会場：小講堂

基調講演 「文明に赴けば名所も日に新た」 横山 俊夫 [静岡文化芸術大学学長・京都大学名誉教授]

理想の世を表す「文明」に類する語は世界に数多く、それぞれ人間の位置づけが異なる。それを理解した上で、今後の地球と人類に意味のある「文明化」を考えたい。ヒントは、鎖国日本の遊山好みや、今の浜松の名所づくりの動きにも見出しうる。

言語と宗教から見た文明の鳥瞰

青木 健 [静岡文化芸術大学文化・芸術研究センター教授]

人類が生み出してきた文明を区分する方法には幾つかあるが、仮に言語と宗教を基準とすると、或る程度の分類が可能である。そこでは、「文明」に該当する語自体が、幅の広い多様性を持つ。本発表では、西アジアを中心とした地域の「文明概念」を中心に、言語と宗教による文明の見取り図を考察したい。その上で、文明間の相互理解を促進するような、新しい地球時代の観光の理念を探りたい。

昭和初期の国立公園法制定期にみる観光立国の期待

赤坂 信 [千葉大学名誉教授]

昭和初期に新聞社の主催で「日本新八景」選定が、全国レベルで実施され、一大ブームが起こる。時代は世界恐慌とまさに重なるが、帝国議会で長年懸案になっていた国立公園法案が急浮上し、制定される。この時代の観光立国に何が期待されたかを明らかにする。

イスラーム文明と観光

富沢 壽勇 [静岡県立大学国際関係学部教授]

文化と文明、イスラーム観光とムスリム観光を概念整理し、イスラーム文明圏内のムスリム国際観光の意味を解く。非イスラーム圏でのムスリム観光では、ホスト、ゲスト双方の文化・文明の枠を超えた普遍性の高い対応が求められる。新たな文明生成の可能性もそこにある。

観光のポテンシャル—自然・文化・文明の多様性の言明—

松本 亮三 [東海大学観光学部教授]

観光とは自然と文化・文明の多様性を基に成り立つものであり、自然と文明、文明間の共生を促すものでもある。グローバリゼーションは多くの利便性を生み出したが、多様性の否定にも繋がる。この弊を克服する新たな文明を構築するために、観光がもつ可能性を考察する。

10/14(日)13:45~15:45 「シンポジウムⅡ：地域資源を生かした観光」

会場：小講堂

『ムセイオン静岡』の基本的理念

立田 洋司 [静岡県立大学名誉教授]

「ムセイオン静岡」は、静岡県立大学や県立美術館ほか7つの文化関連機関が連携し、「教育ミッション」を旗印に文化・芸術・歴史・科学を総合的に学ぶ場を模索している。

静岡の知的文化財「羽衣」と観光

鈴木 さやか [静岡県立大学国際関係学部講師]

地域に伝わる(物語)は、その地の特色や魅力を象徴する。発表では、三保松原を舞台とする能「羽衣」の普及活動を紹介し、(物語)の発信が観光促進に果たす役割を考える。

漁協直営食堂が地域社会に与える影響

平塚 聖一 [東海大学海洋学部教授]

地元の水揚げされる新鮮な魚介類を提供する漁協直営食堂の出店数が増加している。その魅力を紹介するとともに、地域の活性化と観光産業への貢献度について考察する。

中山間地域における観光資源としての「^{たしゅつし}他出子」: 浜松市天竜区佐久間町を事例として

船戸 修一 [静岡文化芸術大学文化政策学部准教授]

生活支援のため親元へ通う子供(他出子)は「地元外居住者=観光客」である。この人的資源を活かした集落維持こそ人口減少が進む中山間地域における観光政策に他ならない。

比較文明学会 | 文明と観光—新たな文明モデルをめざして— | 参加申込書

下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、10月1日(月)までに、FAXまたは郵送にて「グローバル地域センター」までお送りください。ホームページからも申込みいただけます。なお、定員となり次第、締め切ります。

FAX・郵送先

〒420-0839 静岡県静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2階 静岡県立大学グローバル地域センター(比較文明学会第36回大会実行委員会事務局)
TEL:054-245-5600 FAX:054-245-5603 http://global-center.jp Eメール: glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

聴講希望日 希望日に○をお付け下さい。	10月13日(土) (基調講演・シンポジウムⅠ)13:30~17:00		10月14日(日) (シンポジウムⅡ)13:45~15:45	
フリガナ				
氏名				
会社名・団体名・学校名				
住所	〒	TEL:	FAX:	
	ご勤務先 ・ ご自宅			○をお付け下さい。
E-mailアドレス				
今後の講演会の案内	希望する		希望しない	

※ご記入いただきました個人情報につきましては、静岡県立大学が開催する講演会のご案内にのみ使用いたします。